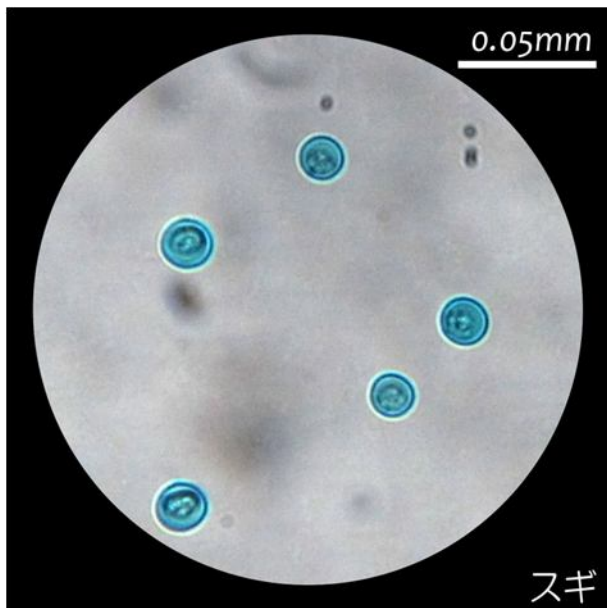


## 「風媒花粉を観る・撮る」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

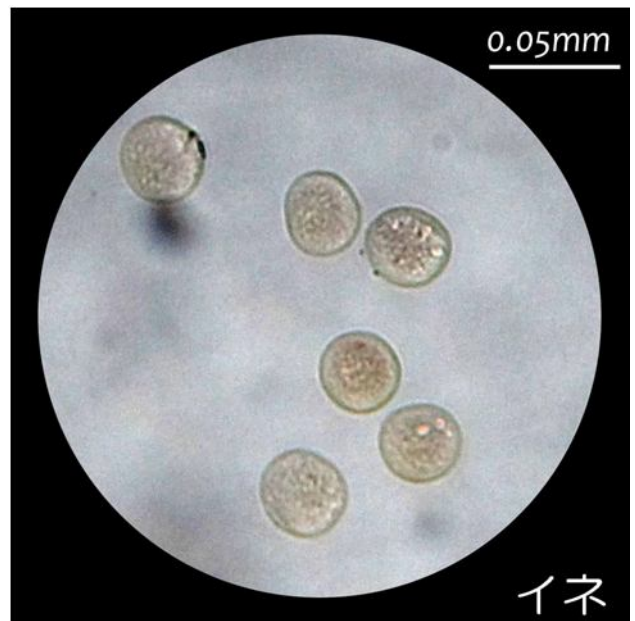
花粉は、顕花植物の遺伝子を、おしべからめしべに伝える、重要な「粒」である。普段目にする、虫媒花粉の大きなものでも、直径は 0.2mm 程度しかなく、肉眼では、文字通り「粉」にしか見えない。花粉の正体を知るには、光学顕微鏡が不可欠である。「花粉をよく知る」ために、顕微鏡を使うことは、ごく必然的な営みと言える。

まずは、教材として購入した、花粉のプレパラートを使って、自分自身が花粉をよく観察し、顕微鏡写真を撮ってみることにした。花粉の顕微鏡写真は、それほど難しくはない。対象が静止しているし、大きさも  $10^{-3}$ mm から  $10^{-2}$ mm のレベルで、児童用顕微鏡の 100 倍程度の倍率の好対象である。まずは、風媒花粉を観察してみた。(文中の写真は、すべて当方撮影。)



これが、花粉症の元凶となる、「スギ花粉」の正体である。大きさは 0.015mm 程度しかない。青く見えるのは、染料のせいで、実際は薄いクリーム色・・・いや、ほぼ無色である。周囲は全縁で、突起物や凹凸はまったく見られない。

スギの花粉は、実際に教師自身が採取して、試料とすることが難しい。花粉の時期には、東京都内でも採取可能だが、さまざまな植物の花粉が混ざっているのので、スギだけ・・・というのが困難なのだ。



次はイネの花粉である。「スギ花粉」は、子ども達も生活経験で知っている。しかし、イネ(お米)に花粉があるとは、非常に意外に思うようだ。そもそもイネに花が咲くことを、知らない子どもも多い。

イネの花粉は、スギに比べると、直径で倍ぐらい大きい。一粒の重さでは、10 倍以上あるだろう。火山灰と同じで、花粉も粒子の直径が小さく、軽いほど、遠くまで飛ぶ。一ヶ所に集中的に群落をつくるイネの場合、それほど遠くまで花粉を飛ばす必要がないのかもしれない。トウモロコシの花粉は、もっと大きい。

